

平成 24 年 11 月 14 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉井 信光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：取締役 執行役員 経営管理部長
鷲本 晴吾
電話番号：(03) 5733-2121

平成24年9月期 通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

平成 23 年 11 月 14 日に公表いたしました平成 24 年 9 月期の通期連結業績予想と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成24年9月期通期連結業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,560	百万円 80	百万円 150	百万円 280	円 銭 234.59
実績値 (B)	2,038	△974	△915	△1,274	△1,069.83
増減額 (B-A)	△1,521	△1,054	△1,065	△1,554	—
増減率 (%)	△44.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (23年9月期)	6,988	1,276	1,220	1,404	1,168.69

2. 差異の理由

当期の当社グループは、有望な企業に資金拠出して投資先企業の成長を支援するプリンシパルインベストメント事業を中心として、ファイナンスアレンジやフィナンシャル・アドバイザー（FA）業務などを行う投資銀行事業、投資家に最適な投資戦略を提供するアセットマネジメント（AM）事業を展開してきました。

FA業務やAM業務により一定の収益を上げつつ、前期実行の不動産投資案件や FinTech Gimv Fund, L.P. (FGF)での投資先企業売却で投資回収があったものの、期末にかけて予定していた投資先企業の売却や事業再生案件のアレンジ、開発型流動化案件のアレンジなどの複数の大型案件のクローズを次期に見送ったことで、収益計上には至りませんでした。また、AM事業においてはグローバル・マクロ・ファンドとの投資一任契約を解除したことにより資産運用残高が減少し、業績進捗は大幅に遅れました。

また、再保険事業を行うCrane Reinsurance Limited (Crane)は、平成24年1月以降、新たな再保険契約を締結せずに、既存契約に基づく保険料収入及び保険金支払等を収益費用に計上しております。当連結会計年度において、出再保険会社(Hardy (Underwriting Agencies) Limited)から、突如多額の保険料返戻及び保険金支払に関する請求を受けたため、当該保険会社に対し請求内容を照会し、データの提出を依頼したところ、当該保険会社またはその関係先における保険料や保険金の精算に誤りがあった為に調整したことが、今回の多額の請求の主な原因であるとの報告を受けました。しかしながら、現時点では、当該保険会社からは、Craneによる要請にもかかわらず、上記請求内容の妥当性を裏付けるに足る説明内容やデータが未だ提供されておらず、Craneとしては承服しがたいため、引き続き関連データの収集と分析を進めることによって真相解明を急ぐとともに、当該保険会社やその他本件関係者とのあらゆる段階での交渉を進めております。

なお、上述の経緯の中、現在に至るまでの関連データ収集と分析に多大な時間を要し、交渉もなお継続している状況下、不本意ではありますが、本決算では売上は計上せず（当初予想売上額は823百万円）今回の請求により見積られる損失のみを計上することといたしました。このため、営業損失が430百万円となりました。

以上の結果、通期の連結売上高は当初の予想より1,521百万円減少し2,038百万円となりました。また売上原価は、再保険事業で上記の通り売上計上しなかったことでこれに対応する売上原価も減少したことで計画値より320百万円減少し、販売費及び一般管理費は、支払手数料の削減、及び貸倒引当済の営業貸付金の回収により貸倒引当金繰入額をマイナスで計上したことで、計画値より146百万円減少しました。これらの結果、営業損益は974百万円の営業損失となりましたが、経常損益は償却債権取立益52百万円を計上したことで915百万円の経常損失となりました。当期純損益については、特別損失として第2四半期で計上したのれんの償却額126百万円、及び少数株主利益121百万円の計上により、1,274百万円の当期純損失となりました。

以 上